

古道を訪ねて ③1

巡礼道 (勝尾寺・総持寺) ③

巡礼道を楠木神社から、北東へ約150m進み、右折して南東に曲がり、さらに200mほど進むと、府道茨木能勢線を横切って中村の旧集落に入ります。道のすぐ左に「中村の天満宮」があります。神社の創建は不明ですが、境内には、文政6(1823)年建立の灯籠、天保5(1844)年の銘がある手水鉢があります。また、巡礼道に面した境



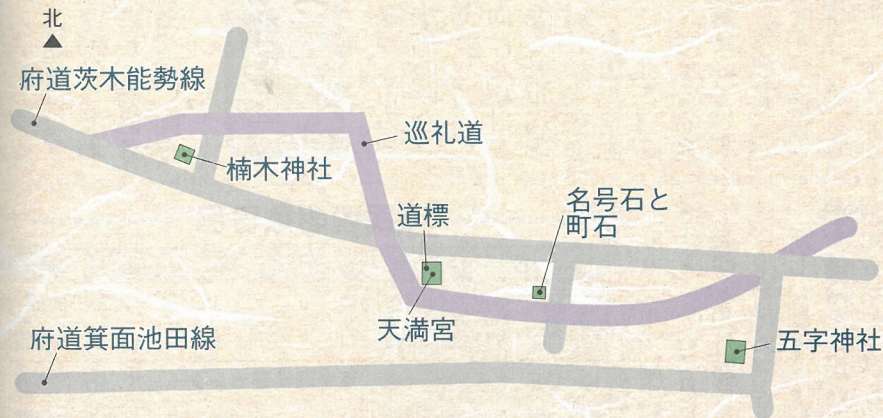
▲五字神社

内の北西の角には道標があります。南面に「右かちをうじ」、東面に「左そうじ寺」の銘がありますが、現在の位置では方向が合わず、本来建てられていた場所から移転されたものと考えられます。

天満宮を過ぎて左に曲がり中村の集落の中を東に進んでいくと、左手の民家の前「南無阿弥陀仏」と刻まれた、高さ約2mの大きな六字名号石が建っています。名号石の前に、地表から角柱の頭が約15cmだけ飛び出している、道標らしい石柱があり、わずかに「十」と読める一文字だけを確認することができません。距離を示す町石であると考えられますが、付近にこれに続く町石は見あたりません。

中村からさらに東に進み山の口に入ると、道から南約50mのところ

知恵の神様「八意思兼命」を祀った「五字神社」が見えます。神社の正面の玉垣に「窯屋垣内」「垂井引成垣内」「辻ヶ市垣内」「白駒井垣内」「山之口垣内」の5つの垣内名が刻まれています。本来、垣内は中世の小集落を意味することが多い名称ですが、ここでは「垣内名」が「小字名」に変わり、五つの字の神社として「五字神社」の社名になったものと考えられます。



▶道標